

第1230回 高知市教育委員会 1月定例会 議事録

1 開催日 令和2年1月27日（月）

2 教育長開会宣言

3 議事

日程第1 会議録署名委員の指名について

4 出席者

(1) 教育委員会	1 番教育長	山 本 正 篤
	2 番委員	谷 智 子
	3 番委員	西 森 やよい
	4 番委員	野 並 誠 二
	5 番委員	森 田 美 佐
(2) 事務局	教育次長	弘 瀬 健一郎
	教育次長	高 岡 幸 史
	教育政策課長	島 内 裕 史
	高知商業高等学校事務法	池 上 哲 夫
	教育政策課長補佐	濱 田 光
	学校教育課指導主事	入 江 洋
	教育政策課総務担当係長	神 岡 純 子
	教育政策課主任	西 村 夏 海

1 令和2年1月27日(月) 午後3時～午後3時50分(たかじょう庁舎5階北会議室)

2 議事内容

開会 午後3時00分

**山本教育長**

ただいまから第1230回高知市教育委員会1月定例会を開会いたします。

日程第1 会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は谷委員、よろしく願いいたします。

**谷委員**

はい。

**山本教育長**

本日は議題がございません。報告事項が2件ということになっています。

まず、「にっぽんの宝物JAPANグランプリ受賞及び世界大会出場報告」について事務局から説明をお願いいたします。

**高知商業高等学校事務長**

お手元に「にっぽんの宝物JAPANグランプリ」という別刷の資料を用意しています。5ページをお開きください。それから、今日はお手元にお茶菓子を用意していますので、よろしければそちらもお召し上がりください。

5ページの下段をご覧ください。「Visit JAPAN部門～その地を訪れることで体験したり購入できる商品～」というところです。昨年11月14日に東京の会場で開催され、8部門47団体が集結した中で、高知商業高等学校と株式会社城西館が共同開発したグローバルバウムが、Visit JAPAN部門で見事にグランプリ受賞、第一位を獲得しました。

5種類ありまして、各委員さんのところにあります黒っぽいものが大豊町の銀不老豆、緑っぽいものが仁淀川町の沢渡茶です。その外は色が似ていますので、食べていただくとお分かりになると思いますが、黒潮町の天日塩、吉良川町の西山金時芋、馬路村の柚子といった5種類の材料を使っています。

お手元の資料の最後に説明の資料を付けていますが、このグローバルバウムは、国際協力グローバルと地域貢献ローカルを組み合わせ命名したお菓子です。

先ほど申しましたように、材料は高知県内の特産品5種類を使って開発したものです。コンセプトは、「高知の特産品を使うことで生産者を応援し地域経済の地域活性化に貢献する。さらに、売上の一部をラオス学校建設活動に充てることで国際協力を行う」としています。

「にっぽんの宝物JAPANグランプリ」は、現在、地方が抱えている高齢化社会及び後継者不足などの現状を打開するため、日本各地にある美味しいもの、人物及びユニークな体験を世界へ発信することを目的に、2009年から「にっぽんの宝物プロジェクト」として始まり、株式会社アクティブラーニングが主催しております。

高知商業高等学校は2018年にも高知大会に参加していましたが、その時は予選敗退となりました。その悔しさを基にブラッシュアップを行い、今回全国大会である「Visit JAPAN部門」でのグランプリ受賞となったものです。本年2月22日、23日にシンガポールのチャンギ国際空港で

開催される世界大会への出場も決まりましたので、本校の生徒3名、模擬株式会社の社員3名と教員1名、城西館職員1名が参加します。

この世界大会の審査人はシンガポールを中心とした世界的に活躍している実業家、シェフ及びバイヤーなどが審査に当たります。もし優勝することができれば、世界を代表する空港であるチャンギ国際空港での商品の取扱いやそのほかの方面への販路拡大が可能になります。

また、高知県は今回、8部門のうち3部門でグランプリを獲得しています。資料の5ページと6ページをお開きください。5ページの上にある「木鶏」は田野屋塩二郎と井原さんが開発した鶏肉の商品、それから6ページの下段にありますスイーツ部門の「西山金時スイートポテトロール」は、南国市の株式会社スイーツが開発した商品です。8部門のうち3部門が高知県の材料を使った団体になっています。田野屋塩二郎、株式会社スイーツ、木鶏の井原さんはヴィラサントリーニ、と全国的にも名の知れた企業ですので、その方たちとの新たなコラボレーションを行うことができれば、また新たなグローバルバウムが生み出されると考えています。

これらの経験は、日頃から努力している市商マネジメント力を発揮できる場面ですし、生徒にとっても大きな財産になるものと考えています。是非応援をお願いいたします。

報告は以上です。

#### 山本教育長

この6ページの上段にある「海のギャング揚げ」も高知ですね。

#### 弘瀬教育次長

8ページにも高知の商品があります。

#### 高知商業高等学校事務長

はい。優勝した商品は、8部門のうち3部門となっています。

#### 弘瀬教育次長

優勝は別ということですか。

#### 山本教育長

紹介されているものと優勝したものは違うということですね。

#### 高知商業高等学校事務長

はい。参加したチームが全て東京に集まって日本大会を実施し、その中でそれぞれ、木鶏は「新体験・イノベティブ部門」、グローバルバウムは「V i s i t J A P A N部門」、西山金時スイートポテトロールは「スイーツ部門」で優勝したということになります。

#### 山本教育長

そういうことですか。

#### 高知商業高等学校事務長

それぞれの部門の優勝者がシンガポールの空港に集まり、世界大会を実施するということになります。

#### 弘瀬教育次長

優勝というか一つということになりますよね。

#### 高知商業高等学校事務長

そうですね。各部門の優勝者として、世界大会へということになっています。

#### 山本教育長

そのほか、質疑等はよろしいでしょうか。

#### 西森委員

はい。恐れ入ります。2点あります。1点目ですが、聞き漏らしたのかもしれませんが。

高知商業高等学校でということですが、具体的に言うと、どういう生徒がこれに関与できるのかを聞かせてください。つまり、入学して皆、高知商業高等学校生徒という地位で、非常に良いプロ

ジェクトがたくさんあると思いますが、どういう形で手を挙げるといふか、どういう選抜になっているのでしょうか。

**高知商業高等学校事務長**

はい。参加する生徒は、基本的に各学年から生徒会に立候補して、その生徒たちが中心になって活動しています。ラオスの活動なども生徒会活動の一環として行っています。

**西森委員**

生徒会には今、何人くらい入っていますか。

**高知商業高等学校事務長**

すみません。また調べておきます。

**西森委員**

何となく近い年齢の保護者になってきまして、具体的に子供たちにどういふチャンスがくるのかなと思いました。生徒会に立候補してその選挙で通って、例えば10人とかにチャンスがくるのかということが気になりました。よろしければ、そのところを教えてください。

それから次に、これは非常にあざとい大人の視点の話です。商業高校の子供たちで、今年成果を出した子供たちがいるわけですが、これはその後の進路で有利に働くといふことはあるのでしょうか。

**山本教育長**

AO入試がありまして、AO入試ではこういうことを成果としてあげます。それからラオスの学校建設も大臣表彰を貰っていますので、こういう活動をしましたというPRをすることによって推薦入試にメリットがあります。

**西森委員**

そうですね。大人といふか私はついそういうことを思ってしまう。

すごく良い取組が複数ある学校で、そういうチャンスを貰い自分自身の能力を高めて、今後の進路にもいかしていけるといふことが、一部の生徒に集中せず、いろいろな人にあるといふなと思ったので。そうになっているとは思いますが。

**高知商業高等学校事務長**

生徒会の組織については私も上手く言えないですが、いわゆる役員をやっている子と、各クラスからの代表の評議員の子と一緒にやっているので、そういった意味ではかなり窓口の広い代表にはなっています。

**西森委員**

はい。分かりました。ありがとうございます。

**山本教育長**

高知商業高等学校の生徒会の方の受験勉強は、ほとんどこのAO入試狙いで、これに力を入れて、報告する準備をしていると聞きました。

**西森委員**

アクティブラーニングといふか、直結している今の学習。

**山本教育長**

人間能力の学校を見つけ出していますので、経験によって得たことを発表する、それで実際に進路を進める方もいらっしゃる。

**西森委員**

分かりました。ありがとうございます。

**山本教育長**

ちなみに、2月3日に新庁舎がグランドオープンし、全ての課がそこに入り、2階の食堂と1階のコンビニエンスストアがオープンします。コンビニを経営しているサンプルザがファミリーマー

トを入れるそうです。高知商業高等学校はそちらとも、塩むすびや柚子からあげをコラボレーションして商品開発をされていて、その商品も店内に並べていただけるということです。オープンの際は、時間はまだはっきりしていませんが、10時過ぎくらいに高知商業高等学校の生徒さんも来られて、PRする予定になっているようです。

#### 谷委員

せっかくご馳走になったので感想です。大変美味しかったです。特に黒色のお菓子が特に美味しかったです。

#### 商業高等学校事務長

大豊町の銀不老豆ですね。

#### 谷委員

すごくいいと思いました。ありがとうございました。

#### 西森委員

塩に一票です。大変美味しかったです。すごくインパクトのある味でした。

#### 商業高等学校事務長

ありがとうございます。

城西館など市内のいろんな土産物売り場で取り扱っていますので、またよろしければ。

#### 山本教育長

ほかに何か質疑等はございませんか。

#### 委員一同

\_\_\_\_\_【は い】\_\_\_\_\_

#### 山本教育長

それでは次に「平成31年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告」について事務局から説明をお願いいたします。

#### 学校教育課入江指導主事

こちらのスライドを使って説明させていただきます。

昨年の12月28日に、スポーツ庁から返却があったデータを基に作っています。この体力調査の結果自体は、小学校には今日、中学校には1月中旬くらいから順次結果が返送されています。

この「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の目的は、このようになっています。調査結果を基にしてというところで、主に行政と学校それぞれの活用の仕方が分かれています。行政としては、子供の実態を把握することによって、体力向上に関わる様々な事業を展開しています。そういった施策の成果と課題を検証して改善を図る。加えてその改善を図ったものを一時的に止めるのではなく、検証サイクルを確立する。次年度にまた改善策を打てば、今度は目標を立て、これに向けてどういった手立てを打っていくか、そういった材料としてこの調査を活用していく。決して子供に評価をつけるものではありません。

また、各学校も同様に、日頃の体育や保健体育等の授業における指導等の改善に役立てる。あとは保護者等への基本的な生活習慣等を含めた啓発に使う資料です。決してテストではありません。

この後の説明には何度か「体力合計点」という言葉が出てきます。余り耳慣れない言葉かと思えます。そもそも体力と聞くと「僕、体力余らないんだけどね」というときの体力、どちらかという持久性の体力を指すと思えます。それ以外にも、握力という筋力であったり、先ほどの持久性、柔軟性及び臨床性であったり、全部で8種目ございます。8種目を80点満点で、あとは平均化したものが体力合計点となります。握力が20になれば8得点、といった形で足していった合計点が体力合計点です。普通のテストの場合は100点満点ですが、ここは80点満点というトライでこれからいろいろ示します。こういった得点表は、小5と中2の男女それぞれ、別々にあります。当然発達段階が違いますので、男女の差もあります。

それでは次に、昨年新聞記事です。赤で囲んでいるところをよく見ていただくと、なかなか厳しいことが書かれています。全国的にも高知県の結果においても、今回の体力調査の結果は下降傾向であったことが読み取れます。その中でも体力が低下した原因として、小学生及び中学生の外遊びが減ったため、また、スマートフォンを長時間見過ぎているためと、新聞では取り上げられていました。

実際に、高知市の体力の結果です。体力調査と、その対になる学力調査があります。調査の実施時期は学力調査と同じで、平成22年度と平成24年度が抽出調査です。平成23年度は震災の影響で実施していません。それ以外はすべて悉皆調査です。学力調査は平成19年度から始まっていますが、体力調査は平成20年度からスタートしています。縦軸には体力合計点、全国との差、プラスマイナスを示しています。

高知県の体力調査の結果です。毎年対象は5年生ですが、小学校5年生の男子の結果がこういう形になりました。一度だけ全国を上回っています。

では、高知市の体力調査の結果を見てみると、こういう推移でした。抽出の時期では一時期県も上回る場所もありましたが、それ以降、悉皆調査では厳しい状況が続いていました。学力調査では全国平均レベルですが、体力調査では県及び全国よりも下回る形ではありました。しかし、今回2年続けて高知市としては改善傾向が出ています。

加えて、小5女子の結果です。昨年度、女子がかなり厳しい結果でした。県との差も今までで最も開いた厳しい結果のワースト2位から、一気に跳ね上がりました。今までマイナス1ポイントを切ったことがなく、今回初めて小5女子がマイナス0.96という、マイナス1を切る改善が見受けられました。また、この取組の成果は後程簡単に説明いたします。まずは結果を伝えさせてください。

先ほどは高知市を平均値とした場合、ああいった形でした。しかし、あの平均値も当然小学校、義務教育学校と合わせて41校あります。41校のループを表すのはこの棒グラフです。縦軸が学校数で、横軸が体力合計点です。つまり、ここを見てみると、60点から22点の体力合計点を取った学校は1校あります。その逆に、マイナス42点から44点は1校あります。というように分布を見たときに、全国はここで、高知県はここで、高知市の平均はここです。おおむね、真ん中に寄っているような分布図だということが見て分かります。過去の分布図でいうと、学力のように二極化みたいなものもありましたが、現在は大体真ん中に集約してきた形が見受けられます。これも改善傾向に伴って、ということがいえるのではないのでしょうか。女子も似たようなところがあります。ただ、男子と違うとすると、この大きな山の後ろに、一つこの大きな山があるということです。いかにこの中間層を、一つワンランクアップさせるかという取組が、これから必要になってくるであろうということまで話をしているところです。

さて、中学校の結果を見ていきます。

高知県の中学校の結果を見てみると、昨年度と2年間続けて全国を超えていましたが、本年度は0.09足りずに全国を下回りました。

高知市の中学校の結果を見てみると、おおむね、中学校の男子はほとんど県と同じような推移をたどっています。今回も下がり方はしたもの、ほかの市町村の下がり方よりも緩やかでした。何にしてもやはり、全国平均を超えていたものが下回ったということで、中学校に関しては、どう取り組んでいくかと話をしているところです。

次に、中2女子です。中2女子も男子と似たような傾向でしたが、ここから上がり調子であったのが今回落ちました。しかし、よくご覧いただきますと、全ての学校が受けたこの悉皆調査の中で、初めて高知市が県を上回りました。0.1ポイントですが、0.1はとても大きいです。初めて市が県を上回った結果です。もちろん高知市の目標は全国平均ですが、県を上回ったということが大きな成果と、担当としては捉えています。

それから分布状況です。先ほどの小学校と同じような形で提示いたします。見てお分かりのように、特に気になるフタコブラクダのようなものは見受けられませんでした。ただ、よく見ると、男子と女子の下の数値の尺度が違います。男子が30～51で女子が35～70あります。実は女子の方が体力合計点の高い学校が多いです。全体評価と考えると、女子の方が高いと言われていることがこれで見受けられます。

さて、先ほどの体力合計点の基となった各種目別です。8種目あるとお伝えしました。非常に見えにくいですが、8種目の結果はこのようになっています。この中で、握力、上体起こしは、寝そべった状態からぐっと背中を反るような形です。長座体前屈は、我々が子供の頃は前に寝そべっていましたが、最近は座った状態でぐっと物を押す形になっています。反復横跳びは、線を越える形です。よく見ると、反復横跳びと上体起こしが、ここ最近ずっと、県より下回っている様子が見受けられます。なかなか全国平均を超えることができない状態が続いています。あとは、20メートルシャトルランは高知市女子がすごく上がった種目です。全国にはまだ届きませんが、なかなかの向上が見受けられます。立ち幅跳びで男子が全国平均を超えました。立った状態から一歩飛び出る種目です。

ソフトボール投げでは、女子はずっと高い値が続いています。ただ、不思議ではなく、学校にいろいろ話を聞くと、「投げる」ということに対しての指導がされているということが分かりました。つまり、子供の能力だけでやるのではなくて、練習があるとそれなりに成果が上がっているということが学校訪問をする中で分かりました。

中学校の結果です。実は反復横跳びと上体起こしは、小学校と同じように低迷が続いています。高知市としてなかなか厳しい状態だと把握できます。女子は握力も厳しいですが、男子が突然上がるということもあります。したがって、全国及び県をずっと下回っている種目がこの反復横跳びと上体起こしになります。残りの8種目ですが、皆さんが子供の頃、シャトルランと持久走がありましたか。中学校に関しては、持久走かシャトルランのどちらかを選べます。高知市では、シャトルランを選んでいる学校は19校、全ての学校で選んでおりますが、併せて持久走も選んでいる学校2校、女子4校ございます。その平均値ですが、ぱっと見てお気づきのように、結果としてソフトボール投げは小学校が高かったように中学校も高いです。これが高知市の特徴と見受けられます。種目でいうと、先ほどお伝えした上体起こしと反復横跳びは、課題が見受けられました。

それから、体力合計点と1週間の総運動時間の兼ね合いを表したクロス集計です。先ほど外遊びが減ったので、体力が落ちたのではないかという話がありました。昨年度の結果ですが、1週間で14時間以上外遊びしている子供が58.7パーセント、つまり1日2時間以上ですよ。また、週7時間から14時間未満、つまり1日1時間以上外遊び及び運動をしている子供は54.8パーセントいるということです。このグラフからいえることは、1日に1時間以上運動経験があれば体力合計点は全国を超えるということです。ちなみに、この割合は高知市に関しては余り変わっていません。高知市の子供は外遊びが減ったということはないです。それがある意味、改善傾向につながっているのかもしれない。

中学校は、小学校と同様に大きな変化はありません。特に、全く運動をしない子が女子は5人に1人いますが、ここは運動習慣の見直しということで中学校にも話をしています。ただ、14時間以上が減っていますよね。これは、運動部活動に関わる指針が、各学校で休みを取るようになったので減りました。ある意味適正になったと県からも話がきています。つまり、高知市の子供たちは特に外遊びが減ったということではありません。

続いて、肥満度です。全部で6項目ある中で、体力合計点が全国平均を超える肥満度はどれだと思いませんか。では、この辺りで全国平均を超えるのでしょうか。棒グラフに表してみるとこのような結果になっています。

標準体型の子供以外、どの肥満度の子供たちも体力合計点全部を超えていませんでした。標準体型の子供しか超えていなかったということです。細かく見ていきますと、高知市の小5女子には高度痩せはいません。同じく中2男子にも高度痩せはいません。ただ、飽くまでも高知市全体なので、各学校によっては逆に高度肥満が20パーセントを超える学校もあります。なので、各学校の基本的な生活習慣の見直しといった点も話をしているところです。

それから、新聞記事にもありましたが、スマートフォンの視聴時間を出してみました。結論から言います。高知市の小学生男女ともに、全国とさほど差はありません。視聴している時間は、確かに長い子もいれば短い子もありますが、割合的にはそんなに変わりません。しかし、中学校を見てみると、3.3時間以上4時間未満、1.5時間からこの時間、子供たちが50パーセントいます。全国その割合はといいますと、このくらいになっています。40パーセントいないのに、高知市はそういったメディア系を見る子供が多いです。これは非常に高いと思います。全国的に見ても県下を見ても、やはり高知市はトップで高い数字が出ています。ここはやはり、先ほどの基本的な生活習慣の見直しといった点にも着目すべきだと見受けられます。

最後に、学校質問紙というところです。学校の校長先生に聞いた質問の回答です。日頃の保健体育科授業に関して、「目標を提示していますか」「学習の振り返りしていますか」「意図的な関わりや子供同士の関わり合いさせていますか」「話し合い活動していますか」という問いに回答したものです。棒グラフの上が中学校、下が小学校で、棒グラフは「取り組んでいる」と答えた表です。では、棒グラフがないところは取り組んでいないのか。「担任に任せている」という回答になっています。やはり、中学校は教科担任制のせい、非常に数値が高いのが見受けられると思います。

それに対して、小学校は35パーセントと低いです。全国の約半分から3分の2程度の回答率なので、決してやっていないわけではないですけれども。各学校へ体力向上委員が訪問していますが、児童生徒質問紙と学校質問紙、同じ目標があります。「子供から見た目標提示はありますか」「先生方から見た目標提示していますか」というこの二つを見比べながら、日頃の授業改善に役立ててくださいということで、今一度その見直しを図っているところです。

では最後、まとめです。先ほど棒グラフ、折れ線グラフでも示しましたが、小学5年生女子が過去最高値となりました。1ポイントを切りました。それから、中2女子が本調査において初めて県平均を上回りました。また、全国平均を上回った、下回ったというところがありまして、あとは種目別の答えの方になっています。「本市の質問調査結果から」というところで、決して実績も結果だけではなく、児童生徒質問紙についても、特に管理職と養護教諭の先生にお願いしています。ここを見て日頃の授業改善や子供たちの基本的な生活習慣の見直しを図ってくださいということで、お願いしているところです。

実際の学校への取組についてはこのような形で、柱としてまずは、小学校が体力調査を流さないでください、きっちり練習してから最高記録を出してください。体力調査は一学期間かけて実施します。主に5月から7月上旬までですが、練習をして最高記録をとってくださいとお願いしています。それから、日頃の体育科の授業改善です。濱田スーパーバイザーと共に、この結果を基に、各小学校を回って話をしています。あとは中学校も同様に、基本的な生活習慣で気になるところがありますので、運動時間ゼロ、あとはスマートフォン等の視聴についても、今一度確認をお願いします。そして、先ほどから何度かお伝えしている上体起こしと反復横跳びについては、この記録は本当に高知市の子供の記録なのか、それとも、やり方に不備があつてなかなか子供が全力の力を出せなかったのか確認をしたいので、来年度は反復横跳びと上体起こしを重点的取組項目とすることを、校長会でも話をしているところです。飽くまでも数値だけを上げることだけが目的ではなく、知・徳・体、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現のために、各学校でできるこういったことを取り組んでくださいということをお願いしているところです。

以上で報告を終わります。

## 山本教育長

ありがとうございました。質疑等はございませんか。

## 西森委員

外遊びのことについてお伺いしたいです。外遊びの時間のカウントの中に、学校での長休みなどで遊ぶ、放課後児童クラブで休み時間があれば遊ぶなどは入るのでしょうか。

## 学校教育課入江指導主事

はい、入ります。体育科の授業以外、全て入れるということになっています。

## 西森委員

分かりました。放課後児童クラブに行っていない子供が、仮に外に出て遊んでいるときに、どれくらい確保ができますか。朝ちょっと遊んでいる子や長休みで遊んでいる子いますよね。チャンス2回ですか。

## 学校教育課入江指導主事

お昼休みがあります。

## 西森委員

お昼休みがありますか。そこをフルで遊んだら、朝来る時間にもよりますが、1時間は確保できますか。

## 学校教育課入江指導主事

恐らく1時間弱にはなるのではないかと。

## 西森委員

1時間弱は確保できる。家に帰ってなかなか環境が整わないとしても、学校で、先ほど言われた一つの基準といいますか、1日1時間外遊びをやりようと思えば、できないことはないという感じですか。

## 学校教育課入江指導主事

はい。学校の取組によってはできないことはないですが、何分今、工事云々で、それから規模によっては、休み時間に運動場で遊ぶのを学年割にするとところもありますので、一概には言いにくいですが、工夫すれば何とかできるのではないかとといったところです。

## 西森委員

分かりました。ありがとうございます。常日頃、疑問に思っていましたので。時間のカウントを、どこまで入れていいのか分からなかったので大変参考になりました。

それから、学力調査と見方が違うので分からなくて、学力調査は何が出るか分からない試験に対してやるわけですが、体力調査はずっと同じことをやりますよね。保護者としては、どういったことに取り組みればいいのでしょうか。例えば、外遊びにしても、小学生は外遊びのイメージがありますが、中学生は公園に集まって遊んでいるというイメージが余りないので、中学生の外遊びというのはどういうものを想定されているのでしょうか。

## 学校教育課入江指導主事

中学生の外遊びというのは考えにくいです。運動ゼロという生徒さんが多かったのも文化系の生徒さんでして、というのも部活動が主に運動の時間の基となるところが多くなります。公園で中学生がサッカーをしているのも余り考えにくいので、主には部活動になるかと考えています。

## 西森委員

分かりました。あと、これも学校の特定にならなければ教えてください。

際立った特徴のある学校があったと思いますが、例えばそれは分析する立場から見て、地理的に言ってそうだろうと思うのは相関関係のある場所でしたか。

### 学校教育課入江指導主事

どちらかという小規模が多かったです。小規模といっても、1人、2人という場合もありますので、運動が苦手な子供にとってはやはり厳しい結果になりますし、高い子供は高い、いずれにしても小規模の子供ということです。

### 西森委員

ではそれはどちらかという、全体の傾向を把握するものとは違う数字と見てもいいということですね。

### 学校教育課入江指導主事

そうですね。棒グラフがいっぱい並んだもの、分布についてはそうですね。

### 西森委員

分かりました。ありがとうございます。

### 森田委員

三つあります。一つは、成績が良かった学校と厳しかった学校があると思います。指導することで能力が高くなるというのはありますが、指導と生活習慣でいうと、やはり成績の良かった学校は、指導よりも例えばスマートフォンの見過ぎというところがないという生活であったというか、指導と生活習慣の両方がキーなのかどちらなのかという疑問がありました。

二つ目も感想といいますか、私が見聞きしたことになりますが、学童保育で夏休み、冬休み、放課後も子供たちもお世話になってきましたが、先生たちが「今日はお天気もいいから子供たちを遊ばせてあげたいけど、ブランコにぶつけるなど何かあれば困るから」とか、「見る人が少ないので、私たちとしては外へ行きなさいと言ってあげたいけど、そういうことを言っただけだから中に入りなさいと言うときがある。」っておっしゃっていた時がありました。見てくれている人がいると、子供たちもあと30分遊べたりするのではないかと思います。

それから、確かに部活がないというところがありますが、中学校の部活は二極化しているような気がします。部活をやる子は熱中してやるけど、もう一方の子は帰宅部といいますか。私もどちらかという体育は2とかアヒルとかが並んでいるような成績でしたが、長期的に見て、大人でもアスリートを目指すのではないですが、ヨガとかそういうものが長期的に要るのではないかと感想として思いました。

### 学校教育課入江指導主事

生活習慣が先なのか指導が先なのか、私も同じようなことを思って調べました。どちらかという高いところにあって、それなりの規模の学校の実技と基本的な生活習慣を比べたところ、正直その学校の基本的な生活習慣は厳しかったです。朝食を食べてきた云々という調査で、高知市は全国及び県より下回っていましたが、体力は高かったです。いろいろと調べていくと、子供たちは運動が楽しい、運動が大切、体力調査を受けるに当たって自分たちで目標値を設定し、日頃の体育の授業が楽しいという思いはすごく高い数値でした。やはり日頃から運動が好きだからこそ、体力調査は嫌々ではあるが楽しい、自分の実力を知った上で、体育の時間にもこういう風に活かしていきたいという子供たちの思いがあったので、高かった傾向に。もちろん生活にリンクすればいいですが、家庭が厳しいお子さんもいらっしゃいましたので。

### 谷委員

今のお話は説明がとても分かりやすく良かったですと思います。おっしゃったように、動きたい、体を動かすことがすごく楽しいと子供たちが思う意欲を高めることが、とても大事だと思います。こうして見ると、今後も学力と体力どちらも大事でどちらも進めていくような、学力だけということではなく、成果もこれだけ出ている面もありますし、そんなところを今後、高知市として大事にしていくことがいいと思います。

それから、「体育科，保健体育科の授業改善」がむしろ中心になりますが，もう一つ特別活動に体力向上の部分がすごく重要な面があるはずです。そこもまた今後学校訪問などで指導もしていく際には，大事にしてもらっていろんな側面から高めていくことができれば，より一層いいと思いました。お疲れ様でした。

#### 学校教育課入江指導主事

ありがとうございます。谷委員がおっしゃった高かった学校の一つが，特別活動でも実際，保健給食委員会がこの体力調査の結果を基に子供たち同士に呼びかけをして，みんなで残食処理を減らしていきましょう，基本的な生活習慣を見直しましょうという取組をされていましたので，是非そういった取組を高知市で広めていきたいと思っています。

#### 西森委員

先ほどの質問の時にはまだ，自分の中でこの体力調査に対する漠然と持った疑問が分からなかったのですが，今少し掘めたのでその点をお聞きしたいと思います。

結局これは何を調べているのかということに尽きます。つまり勉強だと，日頃授業をやっている程度そこを何パーセントこなしているかで点数が出るので，それこそ授業改善にもつながってくる。それが社会にどういきるかということが，正に今の社会の課題だとは思っていますが，学校の活動で先ほど言われた調査をして，改善しますよというのは分かります。

この体力調査の項目は，私たちの頃から余り変わっていないわけですが，腑に落ちているようで落ちていないところがあります。握力というのは恐らく物を持ったりする力とかですよ。それができれば，世間の役に立てる可能性はあるでしょう，物を持てるわけなので。上体起こしは背筋ですか。

#### 学校教育課入江指導主事

上体起こしは背筋ですね。

#### 西森委員

背筋ですよ。柔軟とか瞬発力とか。走ることも，それこそ防災のときに逃げるために走る。本当に走れるのか，人様の足手まといになるのではないかと思うので，やはり，生きるためにこういった運動技能があることはすごく大事なことでしょし，勉強するにしても仕事するにしても体力はすごく大事だと思います。ですので，いろんな意味で否定していくものではないですが，これをやってこれができるということが，すなわち何の現われなのかということをおもいました。先ほどの理想でいうと，例えば外で遊んで木登りのようなことをやっていると，その子にやらせば，確かに昔の子は体力があったねということになっているのか。これをもって，これができる子がすごい外遊びができる元気いっぱいの子だということになっているのか，実は全然違うのではないか。それこそ，皆から体力一番スポーツ王みたいに思われている子でも，練習をしていないと，出なかつたりするわけですよ。実際この子は体力や身体能力の高い子で，とても高いから全部出るとは思いますが。ただ，その辺りの相関関係とか，さらに，これができるから社会にどういきっていくのかということが，つながっているようでつながっていないという人も，恐らくいると思います。その辺りを生徒は分かっているのか，教えてもらっているのかということをおもいました。この試験は何のためにやっているか，みんな腑に落ちてやっているのでしょうか。点数がいい子はすごく嬉しいでしょうね。

#### 学校教育課入江指導主事

子供たちへの示し方云々ですが，大抵調査をするとき，今は4年生から6年生に向けるということになっています。4年生から6年生が受けるに当たっては，一学期に自分自身の体力を知って，こういう状態から実際に頑張ってみて，こういう結果であったから，三学期及び来年度にどのような目標を立てよう，これが先ほどスライドで示しました豊かなスポーツライフになります。みんながアスリートになるわけではなく，こういった筋力や柔軟性があると，おじいちゃんおばあち

やんになっても健康でいられるということから、子供たちには話をしている方が多いのではないかと考えています。事細かに握力ができるから云々というところまでは、なかなか行ってないです。

**西森委員**

能力もあって、素直にやって素晴らしい体力、身体能力を持っていらっしゃる方もいると思いますが、やはり少しそういうことが分かっていない子供もいると思いますので、是非教えてください。

**学校教育課入江指導主事**

承知いたしました。

**山本教育長**

先ほどの説明の中で、これが本当に高知市の子供の実力なのかということがあったと思いますが、なかなか目標を立てにくくてそういう結果なのかということもあると思いますので、そういうところをきちっと。高知の子供はもっと体力があると感じるところはありますので。反復横跳びとか上体起こしとか、本当に全力で力を出しているのかということ、いかに集中して臨むかということも大事なのではないかと、それは学力とかそういうところにも通じると思います。

**野並委員**

この結果のフィードバックの方向、例えば発育ですと幼稚園及び保育園の低学年の動きや運動などそういうものをイメージしますが、小学校5年及び中学2年はもう仕上がっているイメージがあって、どこにフィードバックをかけてというのをイメージされているのでしょうか。どう評価してどうフィードバックをかけて、どこを良くしようとしているのか、つまり、この体力がないのは実は幼稚園のときにちゃんと運動ができていないからだとか、そこをもうちょっとしないといけないという風にはならないわけですね。その辺りの10歳前後の運動が足りていない。

**学校教育課入江指導主事**

もちろん運動というところもありますし、教育現場では体育科の授業においてというところに重きを置いています。体力調査の結果をいかして日頃の授業改善というところも。臨床性がなかなか厳しい子供であれば、身体づくりのためにこういった要素を入れた運動を最初の10分で取り入れるなど、そういった授業改善の取組にフィードバックは大きいと考えています。

**野並委員**

ありがとうございます。分かりました。

**山本教育長**

ほかに質疑等ございませんか。よろしいでしょうか。

**委員一同**

\_\_\_\_\_【は \_\_\_\_\_ い】 \_\_\_\_\_

**山本教育長**

以上で本日の議事日程は全て終了いたしました。これで教育委員会を閉会いたします。

閉会 午後3時50分

署 名

教育長 \_\_\_\_\_

2番委員 \_\_\_\_\_